



砧の響き

—月明かりと女たちの世界—

思っ

—発表会は趙寿玉さんらしい世界だと感じました。中でも印象的だったのは、あの「砧」の場面でした。

—ええ、暗い静けさの中で、二人の方々が、それぞれ砧を打っていました。合わせてというのではなく、それぞれのリズムで、語り合っていました。ふと、気がつくともっとたくさんの踊り手たちがそれぞれの手でスゴンを持って舞台上に現れました。二人も、砧で打っていたスゴンを持って踊り始める。…「楽器のような小道具」というよりは、何か込められた意味があったのかしらと

—と云いますと？ 砧というのは、木槌で衣の生地を打つてやわらかくしたり、つやをだしたりした道具ですよ？

—と云いますと？ 砧というのは女性の仕事でした。私自身は、実際にそれが使われた場で生きた経験はありません。ですが、何か懐かしい気持ちにさせられる音なのです。

私イメージの中で、夜、女たちが、あちこちの家で砧を叩き出す…それぞれの音色で、それぞれの自分語りを始める。叩いていると、いろいろなことが勝手に思い出されてくる。自分が持って生まれた澱のようなものが、音色の

中で昇華され、悲しさや苦しさも美しさに転化されて、音そのものが、人の心をよみがえらせてくれるような楽器になる。

「ああ、私も愚かな事をしてしまったこともあるけれど、それにはそうしなくてはならない理由もあつたんだよね」「辛かったね。大丈夫だよ。私にも分るよ」…そんな風に、アナンネ（向こうの家の奥さん*）と心が通じ合うような、私たちの優しい時…昼間の労働からはなれて月明かりの下、21世紀に生活する私たちの中で、「非日常の中での現実」の言葉のような響き。

—ああ、そう言われてみると、サルプリチュムの世界に通じる場所がありますね。

—と云う展開だったのでね。「月と女たちの世界」という意味では、フィナーレのカンガンスルレを思い出します。踊りとしては、サルプリチュムとはまったく違う感じがする。

—ああ、私も砧と鼓だけで、サルプリチュムを踊ってみた

—そう言われてみると、サルプリチュムの世界に通じる場所がありますね。

悪な心を抱いてしまった人も、すべてを包み込むような月明かりの中で、心を一つにして、みんなが踊る。そろえて踊ることとは少し違う。心がひとつになって、踊りがひとつになり、自然に輪になって、どんな境遇の中にあっても一緒に生かされている喜びが爆発のチュムになる。そんなチュムパンのイメージがあつたのです。

今回は、取り留めのない「女たちの語らい」になりました。日本の能楽作品にも「砧」という作品があります。この作品でも「砧打ち」が夫の留守を守り妻の悲しみ、情念の表現として扱われているようです。ふと目に止まった「砧」が趙寿玉さんのチュムパンを語ってくれました。

聞き手…西方恭子

*アナンネ…女性の総称。普通は奥さん、という意味。「向こうの家」という意味はない。こちらの家の人が使った初めてそういう意味や内容が出て来る。

チュムパンの会、初の発表会が無事終了しました。
皆様よりいただいた感想をご紹介します。

帰りの雨の中で、幸せでした

加々美 洋子

宮（宮崎さんのこと）、いい舞台ありがとう。あの日、雨にぬれるのも構わず新宿駅まで歩き、帰りました。何故なら楽しい気持ちでいっぱいだったから。偶然あった友人と「発表会の粋をこえた本公演だよね」など話し帰路に着きました。

それは見ていて、舞台の中から踊っている人達の「生活からの息づかい」がとても強く感じられ、喜びの爆発みたいなのがあって、今まで見た民俗舞踊とは違うと、思いました。そしてこれが本当の民俗舞踊だ！と思った時には思わず掛け声が出ていました。

今は時間もたち、一つ一つの作品の事を細かくは言えませんが、「サルプリ舞」を観ていて、あの、言葉にならない一人一人の心の内を静かに語っているような動きは、決

して新しい振付ではないけれど、静かに、でもある緊張感があつてそれぞれの人生を感じました。心に謙虚さがないと伝わらない、かもしだせない「におい」がありました。私もダンサーなので、直感みたいなものですが——。

宮は日本人なのに韓国舞踊をどうして続けているのか、今回なんとなく分かった気がするよ。間違っていたら申し訳ないけど、韓国、朝鮮人と日本人の民族の違いはあつても、日本という同じ土に生き、同じ空気を吸っている生活感覚が韓国舞踊の中にあるから続けられるのだと思えました。今の日本の中にはなかなかないよね。心湧きたち、血が踊るそんな息づかいをする人々の心粋さが私にも移ったみたいですよ。
ありがとうね。

技量の差をカバーする演出

福田 都

私が最初に韓国芸術の世界を知ったのは、40年近く前のことです。その鮮やかさ、華麗さ、そして踊り、声楽、楽器までこなす芸術性の高さに驚かされました。

芝居仲間の友人があるきっかけで韓国芸術に魅了されていき、何年か後には公演に出演するまでに至ったことがあります。彼をそこまでひき

つけたものは何なのか、と不思議に思いましたが、ある公演を観たことで納得がいきました。

カヤグムの深い音の響きと、パンソリのもの哀しげでいて力強く心に打ち付ける語りに感動しました。

昨年2月、私が主催する芝居の中で、韓国舞踊を取り入れたいと思い、趙寿玉先生に無理を言って協力していただきました。芝居にはサルプリ舞を導入したのですが、観客の方から「韓国舞踊の場面が一番よかった」と言われました。演出する側としては恥ずかしいことですが、芝居を引き立てていただいたことに、本当に感謝しております。

そういった縁があつて、今回の発表会のお手伝いをさせて頂いたことになり、本番一ヶ月前、一週間前、舞台稽古、本番を観させていただきました。事前の練習を観たときは正直、生徒さんの間でこれだけの技量の差があると、たいへんなのではないか、と思っ

ておりましたが、構成、演出の素晴らしさでとてもよくまとまった公演になっていると感嘆いたしました。

また、趙先生の舞は「品性」そして「美」を兼ね備えている芸術性の高いものだと、改めて認識しました。

舞台の袖で観ていると、先生の「あつー」「はあー」というため息とも悲鳴ともつかない声が開いてきます。私がお芝居で演出をするときに「自分が出演したほうが楽だ」と思うことがあります。そのせいか、先生のハラハラ、ドキドキが伝わってきました。

演出に関して触れますと、「ノドウル江辺」は、踊り始めてから年数も浅く、年齢層の高い方たちが出演されていましたが、観ている側をとてなごやかな気持ちにさせてくれて印象に残っています。私も習ってみようかな？ 何て甘いことを考えたりもしました。

生徒さんの技術に差があるのは明確でしたが、みなさんが楽しんで踊っていることが伝わるメリハリの利いた舞台でした。

3年後、もしかして5年後？の舞台を楽しみにしております。



アンケートより



●予想を超える感動にひたることができました。これまでサムルノリに比べチュムの関心は低かったのですが、今回の発表会で認識が変わりました。一度にこれだけ多彩な演目を観られ、得した気分でした。「発表会」だからでしょうか、集中して演じる生徒さんの気持ちと、それを観る自分の気持ちが一體になるような熱さも感じました。身体が作り出す美しさを再発見した場となりました。

●踊りの「静」と「動」がマッチしていきびきびとした踊りに気持ちよく感動できました。打楽器と歌は初めて聴くもので、迫力もあり、とても楽しめました。衣装も色鮮やかで印象的でした。皆様の真剣さと努力が伝わり、胸が熱くなりました。

●みなさんの表情がよかったです。踊りを楽しんでいてということが感じられました。練習もたくさん積まれたのでしょう。長杖舞は大人の色気を感じ、勉強になりました。私も踊りたいという気持ちになりました。

●大陸を感じました。音楽が



まるでモンゴルの草原から吹いてくる風のようにでした。隙のない身体の動きと「気の動き」、素晴らしかったです。

●退屈かと思って知人を誘わなかったことを後悔しています。

●これほどレベルの高い内容だとは思いませんでした。美しく力強い舞と演奏に感動しました。日本にとって最も近い国である韓国の優れた文化をもっと広めるべきだと思いました。

そして、そうした活動を地道になさっている先生に敬意を表します。

●最高でした。冒頭の五方舞から「涙」でした。胸が躍り、顔が緩む舞台でした。宇宙のなかに生きている実感と喜びを熱く感じる事ができました。そして出演者の方々の「踊りが好き！」という「気」が強く伝わってきました。

●リハーサルと本番でみなさんの表情ががらりと変わりました。「寿玉マジック」とでも言いたいでしょうか。先生のすごさを見た舞台でした。

一人ひとりが輝いていました。美しく舞うみなさんを見ながら、私の心と身体も一緒に踊っているような気持ちになりました。



p.1(右写真)～p.3 写真撮影／和田咲子

十年振りの再会&再開

高山 豊美

私と韓国舞踊との関係は十年前、友人の「習ってみない？」の一言がきっかけだった。踊りセンスの全くない私は先生に怒られ、時に悔し涙を流しながら二年程通ったのだろうか。先生の都合で教室がなくなり、舞踊への気持ちもそのままフェードアウトしてしまった。そんな私が再び舞踊を習い始めようと思ったのは「何かをしたい！」という気持ちから。そして、様々な選択肢の中から選んだのは再び韓国舞踊だった。

見学で久しぶりに聞いた「ハナトゥルセ〜ネット」基本の踊りを見ながら「そうそうこんな感じだったなあ」と十年前を思い出す。見ているうちに体がウズウズしてきた。そんな気持ちを感じてか、先生が「以前やったことがあるのなら大丈夫よ。やってみない？」と声を掛けてくれた。絶妙なタイミングで必死についていくだけで、動きはボロボロだったけれど気持ち良かった。練習が終わってから趙先生が、「以前、会ったことがないかしら？」「そう言われると私も初めて会ったような気がしないのですが…」「金さんの生徒さん？新宿の教室で踊っていたでしょう」「アッ！私達の練習を見てくれた方ですね」なんと、十年前に会っていたのです。いやあ〜ビックリ！これもご縁かしら…。

再び始めた踊りはロボットのような。肩の力を抜いて！と先生の檄が飛ぶ。十年前と同じことを言われてしまった。ほんと成長してない。頭の回転の悪さも相変わらずだ。足に集中すると手がおろそかになる。先輩と一緒に動くとき出てみて」と言われて試みると全く出来ない。ほんの少し前にしたことなのに…。自分に腹が立つし、教えてくれている先輩に申し訳ない気持ちでいっぱいになる。こんな覚えの悪い生徒に一生懸命教えてくれる先生や先輩方に感謝です。

このチュムパンの会で習っている生徒さんたちはみんな踊りが好き。そんな仲間の良い刺激を受けて私も踊りに狂ってみよう。

◎活動報告

◎ 2008年4月19日(土)

LaLaTVチャングム放送記念「宮廷女官チャングムの誓い」先行特別試写会&韓国舞踊鑑賞会出演
富山県魚津市 ホテルグランミラーージュ天翔にて
演目 舞鼓、扇の舞、立舞、男舞、ソゴチュム

◎ 2008年5月24日(土)

チュムパンの会韓国舞踊発表会開催
東京 四谷区民ホールにて
特別ゲスト 河万鎬先生

演目 五方舞、剣舞、鳥打令、ノドウル江辺、扇の舞、杖鼓舞、三面太鼓、固城五広大基本舞、固城五広大マルトウギ、サルプリ舞、散調舞、ボンソナル、固城五広大両班舞、カンガンスルレ

◎ 2008年6月21日(土)

つながる歌 つながる舞 つながるいのち〜戦争と女性の人権博物館建設のためのチャリティーコンサート
〜に出演
大阪 天満橋 エル大阪(エルシアター)にて
共演者 安聖民(バンソリ)、李政美(歌)

演目 サルプリ舞、沈香舞(創作舞踊)、小鼓舞

◎今後の予定

◎ 2008年7月25日(金)、26日(土)

INTER MUSIC FESTIVAL 2008「じつより遠く、よりこのこに近く」詩人・金時鐘をむかえて 音と、詩と、舞と、
東京 Rs Art Courtにて

◎ 2008年8月10日(日)

民衆の鼓動 韓国美術のリアリズム1945-2005 ミュージアムコンサート「韓国伝統舞踊」
東京 府中市美術館 エントランスホールにて

◎ 2008年10月10日(金)

五方舞Ⅲ
東京 めぐるパーシモン小ホール(めぐろ区民キャンパス内)にて

お問い合わせはチュムパンの会事務局へ 03-3269-3258 趙富子